

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあふれる時津小



↑こちらからも↑

令和6年12月24日（火） 発行人：校長 森内 秀学

アウトプットの足跡と未来

2学期のテーマは「アウトプット」でした。思いや考えを表現し、それが相手に伝わっているかどうかを見極めることで、自信を深めたり、課題を認識したりして、さらなる成長を目指そうとする意欲を高めるのが目的でした。さて、どうだったのでしょうか。



左は、12月18日（水）に、生活科の学習の一環として、2年生が1年生を招いて開いた「おもちゃランド」。2年生が、国語科で学んだ「まず」「次に」という接続詞を使って遊び方の説明書を書き、1年生にそれを示しながら上手に教えていました。

楽しそうな1年生の姿は、2年生のアウトプットに対する、何よりの評価でした。

右は、12月19日（木）に時津公民館で行われたイングリッシュスピーチコンテストの様子。上手な発表と同じくらい感心したのは、応援に駆け付けたたくさんの子もたちの姿です。アウトプットの力は、受け止めてくれる人がいるからこそ伸びます。その背中を見ながら、子どもたち同士の円滑な人間関係や信頼関係が築かれているからこそアウトプットの力は育つのだと実感しました。



左は、12月20日（金）に児童会主催で開催した「学校かくれんぼ」。5年生を入れた6～7人の臨時グループを作り、隠れた6年生を探すゲームです。「みんな」と仲良くできるようになるのが目的でしたから、最初に、異学年と声を掛け合いながら素早くグループを組む遊びがありました。遊びとはいえ、よく知らない異学年の人ともすんなりグループを組めた姿は立派です。こうした場で、人権意識に基づいたアウトプットの力が適切に発揮されてこそ、育成してきた意味があります。

今や「言わなくても分かるだろ？」という論法は通じにくい世の中になってきました。アウトプットの力は、多様な人たちと考えをすり合わせ、方向性を見定め、協力して生きていくために欠かせない力です。では、自分自身の課題はどこなのか、強みはどこか…。

3学期は、子ども一人一人がそのことを自覚しながら歩める期間にしていきます。

【お知らせ】

5年1組担任川本睦教諭の12月29日からの産休に伴い、3学期から、5年1組担任を、遠藤直樹教諭に変更します。ただ、遠藤教諭は教務主任も兼務するため、川本教諭が担当していた授業は、川本教諭の代替として赴任する講師が務めます。

